

## 抑制メロンの栽培法について

## 第1報 品種とは種期

志茂正人・石田栄一・米田英世

(鹿児島県農業試験場)

SHIMO, M., ISHIDA, E. and YONEDA, H.

Improvement of the Cultivation Systems of Melon in the Autumn Production

(1) On Varieties and Seeding Dates

高温長日から低温短日に向かう条件下での暖地抑制メロンの栽培技術についての研究は少ない。そこで、暖地におけるメロン栽培について、露地トンネル抑制とハウス抑制とを対比しつつ、品種とは種期との関係を明らかにしたので報告する。

## I. 試験方法

露地抑制 (鹿児島農試熊毛支場・西之表市)

供試品種: ハウスメロン〜コサック2号, ふかみどり, サンライズ, アイボリー, マクワ型メロン〜キンショウ, プリンス。

は種期: 7月25日, 8月4日, 8月14日, 8月24日。

接木 (台木, 金剛) を行って子づる2本仕立, 20節摘芯の地這栽培で, 着果数はハウスメロン1子づる当たり1果, マクワ型メロン2果として生育前半は寒冷しや, 後半は温度低下の10月4半旬よりビニールの被覆を行った。

ハウス抑制 (鹿児島農試・鹿児島市)

供試品種: ハウスメロン〜ナポレオン, コサック2号, ふかみどり, ニュー北海キング, ラッキー, サンライズ, アイボリー。

は種期: 7月25日, 8月10日, 8月25日 (無加温区, 生育後半最低15°C加温区を設定), 9月10日 (生育後期加温)。白根で, 親づる1本仕立, 25節摘芯の立栽培で, 着果数は1株1果とした。

## II. 試験結果および考察

1. 地上部生育を生体重で比較すると, 露地抑制では8月4日まき, ハウス抑制では8月10日まきが最も生体重が重く, その後は種期をピークにして早まき, おそまきともに生体重は減少する傾向を示した。この栽培期間 (育苗を除く) の気温は, 8月4日まきで28.3°C (最高平均気温) - 17.9°C (最低平均気温), 8月10日まきで

33.0°C - 17.0°Cとなり, この作型では最低平均気温17~18°C程度が適期となるものと考えられた。

品種では, コサック2号, ふかみどり, プリンスの生育がよかった。

2. 雌花の着生状況をハウス抑制についてみると, は種期の早い7月25日まきでは各種とも流れ雌花の発生が多く, 特にアイボリーでは顕著であった。健全雌花の発生は, ナポレオン, ラッキー, ニュー北海キングではは種期による差が少なく, これらは環境条件 (気温, 日長) に対する反応の小さい品種と考えられた。は種期が遅れるに従って雌花発生率は増加する傾向がみられた。

3. 果実の肥大は, 露地抑制ではは種期が早いほど良好で, 品種ではコサック2号, アイボリーがよかった。ハウス抑制でも露地抑制と同じ傾向を示し, 品種ではコサック2号の肥大性がよく, 肥大期の平均気温は25~26°Cであった。ナポレオン, ラッキーでは, は種期による変動が小さかった。

4. 糖度は, 露地抑制ではコサック2号, ふかみどり, キンショウは7月25日まき, プリンスは8月4日まき, サンライズは8月14日まきでそれぞれ高いが, アイボリーではは種期による差が小さかった。ハウス抑制では7月25日まきは全般に低いが, その後の種期では大差なく, 糖度の高いは種期の登熟期の平均気温は22~23°Cであった。

## III. 品種とは種期の関係

露地抑制ではコサック2号, ふかみどり, プリンスが適し, は種期はそれぞれ8月上旬, 8月極上旬および8月15日が限界となる。

ハウス抑制では7月下旬まきでふかみどり, 8月上旬~下旬まきでコサック2号, アイボリーが適する。